

日本産業看護学会



「産業看護の定義」が決定しました

産業看護の定義

産業看護とは、産業保健における看護専門分野であり、働く人々が健康と安全の保持増進が図れるように支援することを目的とし、これらを通して、働く人の QOL ならびに組織の生産性の向上に寄与するものである。

産業看護職は、産業保健専門職チームの一員として活動する。産業保健専門職は、事業者が労働者の協力を得て、産業保健における事業者責任を果たせるように、事業者・労働者双方に対して、公正かつ中立を旨として、チームで支援する。その活動にあたっては、関係者・関係機関と連携・協働し、個人・集団／組織に対して、組織的に支援する。

産業看護職は、健康に対する対象者・対象集団／組織の反応を診断し、問題解決やポジティブヘルス推進を支援する。対象者に対しては、個人を全人的にとらえ、価値や生きがいを尊重し、その自助力に働きかけ、労働生活への適応を支援する。対象集団／組織に対しては、これらを包括的にとらえ、それぞれの実情を勘案し、作業条件ならびに職場環境を整備する自主的活動を支援する。

以上

日本産業看護学会

「産業看護の定義」が決まるまで

日本産業看護学会は、2012年12月に「産業看護学の発展と高度な実践能力・実践方法の開発により社会に貢献すること」を目的に設立されました。10年を経過した現在、この趣旨に賛同し、多くの仲間が力を合わせて、その目的を達成すべく、活動しています。

わが国では、私たちの専門分野である産業看護は、他の看護分野に比較すると短く80年余の歴史しかありませんが、それぞれの産業看護職が実践の場、教育・研究の場で努力を重ね、ようやくその独自性・専門性が見えて参りました。そして一方、産業看護活動の経験知が積み上げられ、それらをもとに、科学的根拠に基づく産業看護活動の基盤が整って参りました。これらのことから、産業看護学体系化を進める段階に達したといえます。産業看護学の体系化ができると、経験知に頼ることなく、初心者から、経験者まで産業看護職として活動するすべての人が、高度な産業看護活動ができるようになります。それを実現するために大切なことは、その礎となる「産業看護の定義」をしっかりと定めることです。今までもいくつかの定義が示されていますが、学問体系の構築のためには、産業保健チーム、看護専門分野それぞれにおける産業看護の独自性・専門性をより明確にした定義が必要であると考えました。

そこで、理事会で畑中副理事長をプロジェクトリーダーとして「産業看護の定義」について、検討を行ってきました。その検討プロセスは、畑中プロジェクトリーダーによって「ニュースレター vol.11」に詳しく述べていただいていますので、ご覧いただいていることと思います。そのプロジェクト会議は18回に及びましたが、その間、検討結果を複数回理事会に諮り、また、広く意見を求めるために、パブリックコメントもいただきました。最終的には理事会での承認後、評議員会の議決を得て、日本産業看護学会としての「産業看護の定義」が決定いたしました。

なお、この定義は3つのパラグラフで構成されています。最初のパラグラフには産業看護とは何かを、2番目に産業保健専門職チームで行う産業保健活動を、そして3番目には産業保健専門職チームの一員として活動する産業看護職の役割を示してあります。

日本産業看護学会

<https://www.jaohn.com/>